

平成30年度 水産業強化支援事業事後評価報告書結果

		長崎県水産部水産経営課	
政策目的	水産業経営の強化		
政策目標	経営構造改善目標	6	
事業実施主体	美津島町漁業協同組合		
実施地区名	対馬市美津島町尾崎地区		
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度	
	平成30年度	令和6年度	
交付金額	3,410,000円		
事業計画の内容	<p>既存施設は自動給油（販売）機能が付いておらず、基本的に漁協職員の立ち会いが必要であることから給油時間の制約が発生し、効率的な操業体制の確立の妨げとなっている。そのため、24時間給油（販売）が可能であり、かつ給油時間の短縮に資する施設能力の向上に加えて、漁労作業の効率化による漁業所得の向上を図るため、カード式自動船舶給油施設の整備を実施した。</p>		
評価	成果目標	漁業者1人当たり平均漁業所得●●千円/年の向上を図る	
	現状値 (A)	●●●●●千円（令和6年度末時点）対目標値【=A/B×100】147%	
	目標値 (B)	●●●●●千円/年（令和6年度末）	
	(1) 現状値の説明	<p>成果目標の達成状況としては、改善計画策定後の令和4年度以降、コロナ禍からの出荷量の回復が見られ、令和5年度については、円安相場であったことから水産物調達業者が国内水産物を調達する動きが強かったため魚価が上昇する特需があり、目標を上回った。目標年度である令和6年度は、コロナ禍からの回復基調や円安による特需も落ち着き、出荷量・魚価とも減少・下落傾向にあったものの、下落前の年末商戦から年始にかけて、養殖マグロについては品薄により商社からの引き合いも多く、高単価で取引され、例年以上に出荷量が多かったことにより水揚げ額が伸び、目標を大きく上回ることができた。その他、以前から取り組んでいる養殖マグロ「トロの華」のブランド化の取組や品質向上の取組により尾崎地区のマグロが高く評価されていることも魚価の向上に繋がっていると考えられる。また、クレーンなどの漁労軽減施設の活用を通じた作業速度の改善等により成果目標を上回ることができたと考えられる。</p>	
	(2) 地域への経済効果（ハード事業のみ）	<p>給油施設の利用状況は、利用計画の56%となった。計画値を下回った要因は、6年度前半（4月、5月）はマグロ養殖用の稚魚を確保するための曳縄漁出漁により目標を上回る利用があったものの、後半はマグロ漁獲制限による曳縄漁出漁回数の減少に加え、イカ釣り漁業不振や燃油高騰に起因する出漁控え、天候不良等により、出漁日数が減少したものである。</p>	
(3) 所見	<p>近年は燃油等の漁業経費が上昇しており、特に令和5年度から養殖マグロ用の餌料価格が高騰しているものの、魚価については、経費の上昇に見合った上昇はしておらず、更に令和7年度は天然クロマグロの漁獲可能性が増加したことから、養殖クロマグロの魚価向上は厳しい状況にあると感じている。中国の日本産水産物の輸入再開による魚価上昇を期待したい。</p>		
(4) 評価機関への意見等			
今後の改善方向等に関する分析	<p>給油量の目標達成には、漁船漁業の主力であるイカ釣り漁業の出漁日数増加が必要であると考えられるが、現在イカ釣りが不漁であることから、まずは年々減少傾向にある給油量を増加に転じさせるため、受益者に対し出漁の際は可能な限り地元給油施設を利用するよう働きかけていく。</p>		